
日本語版 ExtraView リリース・ノート
バージョン 5.0.2

2006 年 12 月



改定履歴

Rev.	Date	Modification
[N]	2006-12-20	新規作成
[1]		
[2]		

目次

1. バージョン 5.0.2 の新機能	1
一般的な機能	1
レポート機能	1
新しい管理機能	1
issue の追加 / 編集の改善	2
2. 日本語版 ExtraView に関する注意事項	3
3. 日本語版 ExtraView に関する制限事項	4
環境に関する制限事項	4
動作に関する制限事項	4
4. 日本語版 ExtraView の既知の不具合	9

1. バージョン 5.0.2 の新機能

一般的な機能

ユーザ・インタフェースを改善しました。

- ドロップ・ダウン・メニュー
- ナビゲーション・ボタンの位置と出現のタイミングを、すべて統一しました。
- レポートを、フォルダに保存できるようにしました。
- ADMINISTRATION メニューのインタフェースを再構成しました。
- 情報を表示するために、ツリー構造を用いるようにしました。
- パフォーマンスを改善しました。

操作性を改善するために、カスケード・スタイル・シートを拡張使用するようにしました。

一対多、および多対多の関係グループをサポートするようにしました。

レポート機能

ホームページ上にダッシュボードを表示し、様々な情報を提供できるようにしました。

エージング・レポートを作成し、そこからドリルダウンすることによって、個々の issue を調査／追跡できるようにしました。

関係グループをレポートできるようにしました。

レポート上で組み込みレイアウトを使用できるようにしました。

棒グラフまたは線グラフにおいて、合計を表示するための棒または線を表示できるようにしました。

ホームページ・レポートの選択を、ホームページ上で直接行えるようにしました。

レポートにおけるソーティングを実現可能にし、レポート情報の表示を改善しました。

新しい管理機能

メニュー構成を再編し、管理上の操作をより簡単に行えるようにしました。

ユーザ管理のフィールドに対して、セキュリティ権限を設定できるようにしました。

許容値タイプを定義したり、管理したりするためのメカニズムをより簡単にしました。

多くの機能、特にユーザ管理に関して、リスト管理を改善しました。

関係者リストに関して、複数の状態（すべてのビジネスエリア、個々のビジネスエリア）をサポートするようにしました。

新しいユーザ・インタフェースで、issue のエスカレーションを管理できるようにしました。

新しいユーザ・インタフェースで、関係グループを処理できるようにしました。

ユーザに対して、電子メールを直接送信できるようにしました。

CSV 形式のファイルを用いて、ユーザ情報をインポートできるようにしました。

インポートしたファイルによって、既存の issue を更新できるようにしました。

リスト情報をエクスポートできるようにしました。

issue の追加 / 編集の改善

セッション・タイムアウトが発生した場合でも、情報の保持と復元をできるようにしました。

使用しやすい方法で、issue 内にある関係グループの情報を表示できるようにしました。

添付ファイルの履歴情報を表示できるようにしました。

issue の履歴情報をダウンロードできるようにしました。

カスタマイズされたフォーマットによって、ALT_ID フィールドを使用するための機能を拡張しました。

2. 日本語版 ExtraView に関する注意事項

日本における ExtraView のサポートは、東陽テクニカが行います。各マニュアルの中で「ExtraView 社へお問い合わせください」と記載されている箇所は、「東陽テクニカへお問い合わせください」と読み替えてください。同様に、URL の <http://www.extraview.com/> は <http://www.toyo.co.jp/>、メールアドレスの support@extraview.com は ss_support@toyo.co.jp に読み替えてください。

日本語版 ExtraView 5.0.2 を Windows 上にセットアップする際は、「ExtraView インストール／構成ガイド」と一緒に、必ず「ExtraView セットアップ・ガイド (Windows 用)」もご参照ください。「ExtraView セットアップ・ガイド (Windows 用)」には、パラメータの変更や日本語版独自の情報が記載されています。

Apache Web サーバ、Apache Tomcat アプリケーション・サーバ、Java SDK、Perl などをインストールする際、「ExtraView インストール／構成ガイド」に記載されているバージョンと、お客様が実際にインストールするバージョンとが異なる場合があるかもしれません。これら関連ソフトウェアのバージョンに関して、そのバージョンを ExtraView がサポートするかどうかについては、東陽テクニカのテクニカル・サポートにお問い合わせください。

「ExtraView インストール／構成ガイド」の中に gcc のインストールに関する記述がありますが、gcc は Solaris または Linux 上で Apache をコンパイルする際に必要となるプログラムです。したがって、Windows 上での日本語版 ExtraView 5.0.2 のセットアップに、gcc は必要ありません。

「ExtraView インストール／構成ガイド」の中に Perl のインストールに関する記述がありますが、Perl は CLI および API の動作に必要なプログラムです。したがって、日本語版 ExtraView 5.0.2 のセットアップに、Perl は必要ありません。

日本語環境における動作設定のデフォルト値は、`Japanese_Application_defaults.sql` という名前の SQL スクリプトで東陽テクニカから提供されます。詳しくは、「ExtraView セットアップ・ガイド」をご参照ください。

3. 日本語版 ExtraView に関する制限事項

環境に関する制限事項

日本語版 ExtraView 5.0.2 がサポートするプラットフォームは、Windows のみです。Solaris、Linux はサポート対象外となります。

日本語版 ExtraView 5.0.2 がサポートするデータベースは、Oracle のみです。Microsoft SQL サーバはサポート対象外となります。

日本語版 ExtraView 5.0.2 がサポートする Web サーバは、Apache のみです。またサポートするアプリケーション・サーバは、Apache Tomcat のみです。

日本語版 ExtraView 5.0.2 では、ExtraView コマンド・ライン・インタフェース (CLI) と ExtraView アプリケーション・プログラム・インタフェース (API) はサポート対象外となります。

日本語版 ExtraView 4.3.5.1 のサイトを日本語版 ExtraView 5.0.2 にアップグレードした場合、ビジネスルールはアップグレードを行いません。ビジネスルールをご使用の場合は、弊社までご連絡ください。別途対応いたします。

動作に関する制限事項

issue に添付したファイルが Microsoft Excel ファイルである場合、添付ファイル内の文字列検索が正しく行えない場合があります。これは、Microsoft Excel が内部的に複数のコードセットを保持していることにより、単一のコードセットによる検索を外部から実行することができないためです。

回避策：ありません。

ファイル名に日本語を含む添付ファイルを保存しようとする時、そのファイル名が URL エンコードされたパスに変換されます。

回避策：保存した後に、手動で元のファイル名にリネームしてください。

表示タイプがリスト、ポップアップ、タブであるフィールドのリスト値に、半角 101 文字以上または全角 34 文字以上の文字が設定されている場合、ファイル・インポート・ユーティリティにおいて、

このフィールドをインポートしようとする、（インポートファイルにこのリスト値を設定していなくても）[テンプレートの作成&ファイルのアップロード] ボタン押下時にエラーとなります。

回避策：リスト、ポップアップ、タブ・フィールドのリスト値には、半角 100 文字以内、全角 34 文字以内の文字列を指定してください。

[検索 - クリック検索] のレイアウトにおいて、リスト・フィールドに対する“REMOVE_NONE” のセル属性が設定できません。

回避策：ありません。

データ辞書において「数」フィールドの [URL として表示] を “はい” に設定しておく、その「数」フィールドをカラム・レポートで出力したとき、合計が正しく計算されません。

回避策：このような「数」フィールドについては、[URL として表示] を “いいえ” に設定してください。

データ辞書のフィールドを一覧するページにおいて、表示タイプが “十進数”、“出力テキスト”、“ポップアップ” であるフィールドについては、表示タイプが表示されません。

回避策：ありません。

添付ファイルも含めて検索するクエリにおいて、添付したテキストファイルの中に含まれている全角の特殊記号（注 1）が検索できません。

回避策：ありません。

クエリによるグラフ作成において、ステータスのタイトルが “|”（半角の縦棒）を含んでいると、“|” 以降の文字が表示されません。

回避策：タイトルに “|”（半角の縦棒）を含むステータスを作成しないでください。もしくは、ステータスのタイトルに用いる “|” には “|”（全角の縦棒）をお使いください。

ExtraView が送信する電子メールにおいて、送信者や本文に含まれた全角の特殊文字（注 2）が正しく表示されません。

回避策：ありません。

データ辞書において、予約語（注 3）を使って新規に UDF を作成しようとしたとき、エラーとならずにその UDF が作成できてしまいます。結果的に、issue を追加しようとしたときにエラーが発生します。

回避策：予約語を使用する際には、何らかのプレフィクス（例えば、“A01_” など）を付加してください。

画面上部のプルダウン・メニューよりも、[すべてをクリア] ボタンや [ページを印刷] ボタンの方が前面に表示される場合があります。

回避策：ありません。

カラム・レポートの実行結果から [View] ボタンをクリックして詳細レポートを表示し、さらに [Return] ボタンをクリックしたとき、カラム・レポートの実行結果に戻るべきところが、カラム・レポートの設定画面に戻ってしまいます。

回避策：ありません。

Microsoft インターネット・エクスプローラのホームページに何も設定しない状態で、インターネット・エクスプローラ起動直後に ExtraView のサインオン画面を表示すると、Java Script エラーが発生します。

回避策：インターネット・エクスプローラのホームページにいずれかの URL を設定してください。

動作設定 RG_UPDATE_BILEVEL_ONLY を「ON」に設定し、タイプが「Bi-Level」の関係グループに所属する issue の編集しようとしたときの、[キャンセル] ボタンが機能しません。

回避策：[×] ボタンでウィンドウを終了してください。

issue 編集画面で [関係グループを管理] をクリックし、[ID #] を空白、[関係グループ] で適当なグループを選択して [分割] をクリックしたとき、関係グループを分割しようとしても Oracle エラーが発生して分割できません。

回避策：関係グループを分割する際には、関係グループの編集機能によって手動で分割してください。

issue 編集画面に [関係グループ] フィールドを配置し、すでにいずれかの関係グループに所属している issue を編集する際、それに加えて別の関係グループに所属するよう [関係グループ] フィールドで選択を行うと、その選択が有効にならず、当該 issue が新しい関係グループに所属しません。

回避策：別の関係グループに所属させるようにする際は、[関係グループ・メンテナンス] を使用してください。

ツールバーの [レポート] メニューから保存されたエージング・レポートを実行すると、表示されたエージング・レポート内の issue 件数が [エージング・レポート詳細] 画面へのリンクになりません。

回避策：エージング・レポートをツールバーの [QUERY] から実行してください。

(注 3) UDF として使用できない予約語

ACTION, CALLED_FROM, CHILD, CUSTOMER, CUSTOM_URL, FROM_ACTION, FROM_OPTION, INTERFACE, LAYOUT_SESSION_TAG, NEW_REPORT, OPTION, PAGE_LENGTH, PAGE_SIZE, PARENT, RECORD_COUNT, RECORD_START, REPORT_DESC, REPORT_ID, REPORT_OWNER, REPORT_TITLE, SEARCH_ATTACH_SIZE, SECURITY, SELECTED, SELECTEDSO, SHOW_EXPANDED, SOURCE, SOURCESO, TEMPLATE_EXPANDED, UDF, VALUE

4. 日本語版 ExtraView の既知の不具合

クエリ機能でグラフを作成した際、None の値を持つ issue の件数が常に 0 と表示されます。

回避策：ありません。

クイックリストにおいて、Column Totals の表示位置（縦位置）がずれます。

回避策：ありません。

「ユーザの詳細を変更」画面を開いた後、「個人情報」以外のページを開いてから「ページを印刷」をクリックすると、印刷が正しく行われない場合があります。

回避策：「個人情報」ページを開いた直後に印刷してください。他のページも一緒に印刷できます。

ログ・エリアのフィールドに対して、最初に入力した文字列と 2 回目に入力した文字列が同一であると、2 回目に入力したコメントが保存されません。

回避策：2 回目に入力するコメントを、最初に入力したコメントと同一文字列にしないでください。

issue にファイルを添付したとき、その作成日時がローカル・マシンのタイムゾーンで表示されず、データベース・サーバのタイムゾーンで表示されます。

回避策：ありません。

エージング・レポートにおいて、時間の単位を“日”に指定したにもかかわらず、いったん表示された「エージング・レポート詳細」をリフレッシュすると、表示される単位が“日”ではなく“時間”に変わります。

回避策：“日”を単位としたエージング・レポートを見る際には、画面のリフレッシュを行わないでください。いったん“時間”に変わってしまった後は、エージング・レポートを作成し直してください。

「新しいカスタム URL レポートの作成」において、「フィルタを表示しない」をクリックしてもフィルタが表示されたままとなります。

回避策：ありません。

カラム・レポートやサマリ・レポートの作成において、タイトルや説明を入力せずに「名前をつけて保存」をクリックしたとき、“レポートのタイトルまたはレポートの説明が入力されていません。レポートのタイトルとレポートの説明を入力してください。”の警告ダイアログが表示されません。

回避策：ありません。

ユーザ・ロール、プライバシー・グループ、ステータスのリスト項目を追加する際、固定データベース名に "." (ドット) を含めた際のエラー・メッセージが正しくありません。

回避策：ありません。

動作設定 EMAIL_FROM_USER_NAME に対して、制限の文字数 (全角 34 文字) を超える文字列を入力することができてしまい、結果的に送信された電子メールの送信元ユーザ名の末尾が正しく表示されません。

回避策：動作設定 EMAIL_FROM_USER_NAME に対して、制限の文字数 (全角 34 文字) 以内の文字列を指定してください。

リリース・レコードに対して read/write 権限を持たないユーザ・ロールが、issue 追加または編集画面を開いたとき、"リリース・レコード" というタイトルだけは表示されてしまいます。

回避策：ありません。

サインオン画面において、"ユーザ ID またはパスワードをお忘れですか?" をクリックしたとき、自動的に作成された電子メールの件名および本文の日本語が正しく表示されません。

回避策：ありません。

有効ユーザの数がユーザロック・ライセンス数の上限に達しているとき、顧客ロールしか持たないユーザを新たに作成することができません。また、ユーザ・ロールとして何も設定していないユーザを、新たに作成することができません。

回避策：ユーザロック・ライセンス数の上限に達していない状態で、無効ユーザとして顧客ロールのユーザを登録した後、そのユーザを有効化してください。

ナビゲーション・バーで ID # を入力して issue を検索し、[Issue の一括更新] を実行した後、もしくは実行しようとしてキャンセルした後、当該 issue の詳細レポートをリフレッシュするとセッションが切れます。

回避策：詳細レポートをリフレッシュする前に、ホームページに [戻る] など別の操作を行ってください。

[グラフに合計の線または棒を追加] チェックボックスをオンにして棒グラフまたは線グラフを作成した場合、合計の値が正しく計算されません。

回避策：ありません。(正しい合計値を得るだけならば、サマリ・レポートを使用してください。)

[クエリ機能全般] 表示タイプが「日」であるデータ辞書をクエリ・フィルタで指定した場合、正しいクエリ結果が得られません。

回避策：ありません。（クエリ・フィルタに表示タイプが「日」であるデータ辞書を使用しないでください。）

「関連 issue を更新」画面において、[1.更新オプション]で「この項目のみを更新」を選択し、かつ[5.通知オプション]で「すべての関連 issue に関連するユーザに通知」を選択した場合、対象となるユーザに対してメールが送信されません。

回避策：この不具合により、実際には変更していない関連 issue に割り当てられているユーザに対して、メールを送信することはできません。これ自体の回避策はありません。変更した issue に割り当てられているユーザだけにメールを送るのであれば、「5.通知オプション」において「関連するすべての issue 上のユーザに通知」を選択してください。